

将来ビジョン及び必要な取組・事業

提案主体名	野沢温泉旅館ホテル事業協同組合	※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入してください。				
提案プロジェクト名	野沢温泉 NIPPONスマートヴィレッジプロジェクト	※同一主体で複数の提案をする際は別名称としてください。				
都道府県名	長野県	※複数の都道府県にわたる場合は「、」で区切って記入してください。				
対象地域	市町村名 野沢温泉村	※複数の市町村にわたる場合は「、」で区切って記入してください。 ※特定の地区を想定している場合は、それも合わせて記入してください。				
① 関連する分野	環境（低炭素、循環、生物多様性） 超高齢化（健康、地域医療） その他（コミュニティ、山村文化、）	※国際連携・国際化に関する事項は、分野ではないため、「その他」欄に記載しないでください。				
② 将来ビジョン(環境価値、社会的価値、経済的価値の創造に関する総合的な目標(2050年を見据えた上での2020年、2030年の姿))		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。				
<p>長野県野沢温泉村は、年間入込数約60万人(平成21年度数値)の温泉スキー観光地であり、入込客の約一万人が豪州・NZを中心としたインバンドである。スキー観光を中心としたインバンドの滞在実績は国内でも数少ない外客誘引成功例として名をさせており、その成功資産を背景に、村内の自然資産、社会資産、国内外の人的ネットワークを活かし、再構築しながら「日本の誇る、環境および超高齢化対応の先進モデル村」として単なる観光地としてではない、地域としての新たなステージを目指したい。このため、既存の環境技術の組合せによる面的取組みと、村に古くから残る「コミュニティに基づいた暮らしのあり方」を日本発のワールドスタンダードライフスタイルとしてブラッシュアップし、世界に打ち出したい。この未来予想図を構成する関連各分野の将来ビジョンとして、環境価値創造分野では、再生可能エネルギー活用による村内電力完全自給化(2050年度)を目指し、2020年度は30%実現、2030年度は50%実現を目指す。また宿泊施設集積から日々出される食品残さのリサイクル(液肥化)も同様の実施率を目標とする。休耕田や耕作放棄地を活用した生物多様性エリアの設置による生物多様性増進についても、調査のうえ目標値を定めて取り組む。社会的価値については超高齢化に対応する、国際的な高齢者滞在モデルスタイルの確立を進めるが、その拠点として2020年度までに、地域医療の充実化をも視野に入れて国際的にも知られるようになる医療拠点施設整備を行う。また高齢者滞在モデルの「見えないベース資産」である村内に現在も息づくコミュニティのありかたを高度活用する研究を2020年度を目途に進め、野沢温泉ならではの高齢者滞在モデル(外来者のコミュニティ参加、山菜活用中心健康食、温泉療法、坂道地形を活かした運動プログラム等)を確立、それに関するエビデンスを得て、最終的には野沢温泉ならではの高齢者滞在モデルノウハウをソフト商品化(エリアマネジメント計画・サービス高度化分野等)する。には、併せて温泉街の修景等を段階的に実施し2030年度までに完了させる。こうした取組みがあいまって2050年度には、世界に冠たる日本型環境・超高齢化対応先進観光地として、内外への発信のメッカとして誰もが認識するユニバーサルスマートヴィレッジとなることを目指す。</p>						
③ 将来ビジョン(②に記載した目標の実現のための取組の基本的な考え方)		※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。				
<p>上記実現のための取組みのあり方として、野沢温泉村ならではの強みを活かす以下の四つのポイントを基本として考えていきたい。第一は小規模自治体の利点を活かすことである。すなわち、意思決定・合意形成が速く、社会実験の効果も計測しやすい点である。第二に、地形・地勢の特色を活かすことである。降雪量豊富な山岳傾斜地の裾野に広がる村内地では、多数の水路から安定的に水流があることから少水力発電集積の導入効果が高いと予測出来る。当該村の場合、地形的に他村と隔離されており、この分離単一集落形態が取組みの他地との峻別性を高めており、モデル化を確立しやすい点も挙げられる。第三に、国際的知名度を活かすことである。前述のようにオセアニアからは数多くの観光客が継続的に来訪している実績があり、近年は外客獲得観光誘客宣伝活動が奏功し徐々にではあるが欧州での知名度も向上しつつある。こうした国際的実績に基づいたネットワークを活用し、世界水準のモデル地域形成を図る。第四に、野沢温泉が体現する日本の持つ固有の原点文化を活かすことである。温泉街の外湯(共同湯)維持等に係るコミュニティ維持の知恵・ノウハウは、そのまま我が国が世界に誇る財産であり、それをブラッシュアップすることにより、新たな「日本発の世界コンテンツ」となり得ると確信する。このほか、村落共同体維持に係る様々な慣習・行事・取り決め等は、その維持のあり方を研究整理することで、国内他地域におけるコミュニティ維持に貢献できる。また、村内に残る古くからの生活文化は、その資産を発掘・再整理することで「ヴィレッジツアー」としての新たな日本観光モデルを世界に提示できる魅力にあふれていることから、国際的視野を持って、その活用を考えたい。</p>						
④ 将来ビジョンの実現のために5年以内に必要となる具体的な取組・事業(技術・システム、サービス、仕組み等)						
番号	取組・事業の名称 ※異なる名称を付けてください。	取組・事業の概要 ※500文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。	取組・事業の期間	実施主体・運営主体 ※複数主体の連名の場合は「、」で区切って記入するとともに、それぞれの役割を()内に記入してください。	価値、分野の種類	国の支援の必要性 ※必要性がある場合、「○」を記入してください。
(1)	再生可能エネルギー活用施設スマートビレッジ実現事業	豊富な積雪量の山岳裾野に位置する村内全域にわたる傾斜地形に流れる多数の水路をまるごと活かした少水力発電を、村全域で取り入れ、他に(曇天も多量に発生する)太陽光や風力など、再生可能エネルギーをトータルに活用する電力自給自足を果たさせる。そのため村内の送電線・メーター等インフラをスマート化させ、国内における積雪寒冷地初のスマートヴィレッジを目指す。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	環境価値、低炭素	○
(2)	村内カーボンオフセット事業	現在は使われていない一部スキー場域に広がる山岳斜面に植林を進め、既存森林間伐も合わせてカーボンオフセットのクレジット発生認証を取得し、同時に村内で決済される商取引における各商品について「カーボンオフセット商品化」を行い、その商品上に小額上乗せされた購入者(消費者)が支払ったカーボンオフセット料金を、村内のクレジット購入にまわす事で持続可能な村内循環完結型低炭素化取組みの実現を目指したい。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	環境価値、低炭素	○
(3)	液肥化による資源リサイクル事業	村内にある200軒以上の宿泊施設から日々出される食品残さを分別回収し、村内設立予定あるいは提携先環境企業のバイオプラントにより液肥化を行い、それを村内の農家に供給販売することで、循環を実現する「観光地型リサイクルモデル」を確立する。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	環境価値、循環	○
(4)	休耕田活用による生物多様性学習エリア開設事業	数多く残る村内の休耕田を活用し、無農薬水田化などを進め、生物多様性の回復を図るとともに、環境学習エリアとして活用する。スキー観光に依存する積雪地域のグリーン期活性化策として、生物多様性を学べるエコツアープログラムを整備、他の環境取組みによるイメージ向上とあいまった形で環境型滞在の基本プログラムを確立する。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	環境価値、生物多様性	○
(5)	温泉医療拠点確立事業	野沢温泉の泉質については、開湯期より、その優位性を示す歴史資料があり、また近年注目される酸化還元電位については昭和24年から研究論文が発表されている。このすぐれた泉質を予防医学に活かすべく、温泉療法医を中心とした教育研究施設・病院を村内に整備し、最先端の温泉力健康活用英知が集まる温泉療法研究者の国際拠点を構築する。	調査研究・H25から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	社会的価値、地域医療	○
(6)	高齢者滞在先進モデル確立事業	温泉力、山菜活用健康食、坂道地形での歩行・運動、コミュニティ参加への精神的充実、など超高齢者の健康維持ファクターとして、そのエビデンスを含めた研究を行い、日本発の高齢滞在モデルとして、ノウハウ移転に関する商品化を検討実施し、最終的に国内外の高齢化地域への応用的輸出を目指す。	調査研究・H25から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	社会的価値、健康その他・コミュニティ	○
(7)	外来者取り込み型コミュニティ保全事業	村の維持にかかわるコミュニティの維持に関しては、ここ野沢温泉でも将来的に盤石な見通しではない。現状でこそ、古くから引き継がれてきた様々な行事や慣習・取り決めが何と残っているもの、高齢化と若年層の流出により、その維持は難しい局面を迎えている。そこで、高齢者を含む多くの集客ある当地において、滞在客を現地コミュニティに積極的に混ぜ込み、リピート化とファンづくりに資するとともに、共同体の維持において一定の役割を果たしていただく、観光地ならではのコミュニティ維持モデルを確立したい。これは全国の山村型観光地のモデルとなるとともに、世界においても、日本人のマナーと責任感に立脚した地域維持モデルとして応用に値するものとする。	調査研究・H25から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	その他、コミュニティ・国際	○
(8)	村内「NIPPON資産」発掘活用事業	北信地域に残る様々な文化や、便利になった現代において失われつつある手仕事等の技術や、保有世代が健康であるうちに引き継ぎ、将来継承し、おもに観光面で活用するため、こうした資源の発掘調査及び再整理を行う。これら資源は「日本の誇る固有原点文化」として、「時間消費」を課題とする滞在型商品の目玉となる「ヴィレッジツアー」へと昇華させる。このように、外客への日本文化を紹介する商品としても可能性を秘めており、外客への提案方法(接客場面での通訳スタッフの充実も求められる)などの充実も進めて行く。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	その他、山村文化・国際	○

(9)	“SOTO-YU”コミュニティノウハウ輸出事業	外湯(共同湯)は外国人観光客が最も驚賛する日本独自の温泉文化の姿である。村内に13箇所ある、野沢温泉の外湯の維持管理は共同湯が残る他地域同様に“住民を主体とした地域コミュニティ”が担っている。海外での日本の入浴文化に関心が高まり、一部の国では、以前では考えにくかった“公衆浴場における入浴”も「日本発の文化」として施設ができてつつある。そんな背景の中、海外の温泉地に登場例が少ない“外湯(共同湯)”を、その“維持ノウハウごと＝コミュニティ形成確立・維持ソフト”輸出するための検討調査を行う。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	その他、国際	○
(10)	歩行者空間創出型温泉街修景事業	古い時代の野沢温泉の典型的建物の構造は道に面した一階部分が、私有地でありながら公道と境なく自由に出入りできる、歩行者休憩および一時避難的な自由利用スペースとなっており、宿の機能は上階に置かれていた。このような歩行者の“たまり機能”の復活は、“歩いて楽しむ温泉地”を掲げる野沢温泉の命題である。自動車交通の街中からの減少にも貢献できる、こうした歩行者利用空間復活を、現状の商店などの協力を得ながら進め、また、国際的な環境・高齢化対応温泉観光スマートヴィレッジにふさわしい通り景観を構築する修景事業を実施したい。	調査研究・H24から	今後、村を含めたコンソーシアムを形成し実施していく	その他、コミュニティ・景観	○

⑤ ④に記載した技術・システム等をインテグレートして実現するイノベーションの内容 ※本欄には1000文字以内の要約を記載願います。詳細資料は参考資料(様式自由)として添付してください。

上述の各取組みに活用する“技術”は、それぞれ途上のもはあっても、一部地域では既に実験が始まっており(野沢温泉でも県費で小規模に、少水力発電の実験を開始している)そのひとつひとつが画期的なものではない。しかしながら隔絶された村としての小規模なまとまりあるユニット感を活かした各種取組みの複合活用モデルの地として、技術活用に向けたインテグレイト地域としての秀逸さは他に例類がないと思われる。既存最先端環境技術と高齢化対応ソフト力を複合活用する中で、現実に即したコスト的にも効率の良い、持続型NIPPONスマートヴィレッジを世界に提案できる。そして、その根拠のひとつが野沢温泉の持つ“国際的観光力”である。海外知名度を活かして国際的にモデル浸透を図り、環境と高齢化に対応した「NIPPON型次世代ライフスタイル」を世界に発信する。他産業に波及裾野が広く、かつ魅力伝達度の高い「観光」の力を最大限活用することにより、地域および各施策の求心力をたかめ、同時に世界発信をスムーズに実施できる。